

# みはま支援学校

実施日時	令和2年12月15日(火)
参加者	生徒40名、教職員20名 計60名
実施内容	災害用伝言ダイヤルの実施、美浜町役場防災企画課 町政お話し出張講座 「災害時に準備しておくこと」についての講義、段ボールパーティション・テント設営の実技講座

## ねらい

- 1 今の時代(感染症など)に合った避難所での過ごし方についての知識を得る。
- 2 地震をはじめ自然災害に備え、防災意識を高める。
- 3 登下校時に災害にあったときにとる行動及び自分で判断できる力を高める。

- 3 美浜町役場防災企画課の担当者(2名)より、災害時の避難方法について講義をしてもらう。その中で、津波襲来後の被害の様子や地震発生後の本校の津波における浸水状況等について映像を視聴し、「いつ、どこにいても自分自身が率先避難者になる」ことを学習する。

## 主なプログラム

- 1 防災スクールの説明
- 2 災害用伝言ダイヤルの実施
- 3 美浜町防災企画課 町政お話し講座  
「災害時に準備しておくことについて」の講義
- 4 パーティション・テント設営の実技講座
- 5 「災害に向けて備えておくべき物」について話し合い
- 6 リモートによる発表

- 4 2グループに分かれて、段ボールのパーティション、テント設営に取り組む。4, 5人で一つのテント設営を行い、避難所開設において一人あたりに必要な空間(約3平米)を体感する。また、大勢が集まる中でパーティションの役割や必要性を知るなど、体験活動を通して学習する。



## 概要

- 1 本日の学習内容を確認。
- 2 各クラスに分かれ、自然災害があった時にメッセージを残せる「災害伝言ダイヤル」を使用し、伝言の録音、再生を実際に行う。





- 5 各クラスに分かれて、「災害に向けて必要な物」について意見交換を行う。実際に被災した場合を想定し、必要な物品は何か、またなぜ必要とするのかについても話し合いを行う。
- 6 各クラスで話し合ったことをリモートを使って発表する。

### 参加者感想文

- 本校は海が近いので気をつけようと思った。
- 伝言ダイヤルを実際に使用し、災害時に使うタイミングの難しさを感じた。
- 実際に避難所で使用するテントやパーティションの設営をし、組み立て方が分かった。
- 講義や実技では災害時に役に立つ学びができた。

### 成果と課題

#### 【成果】

- 美浜町役場防災企画課担当者の講義及び助言により、児童生徒の防災意識を高めることができた。東日本大震災後の町の様子や、本校近隣の津波浸水被害について予想した映像を見ることで、津波の恐ろしさを実感することができた。
- 体験活動として避難所設営において必要なパーティション作りやテント設営を行った。災害時において集団で生活していく中で、感染症対策の必要性や方法を学ぶことができた。また、市町村の担当者が避難所にいない場合でも、各自が率先して動く必要性があることの意識を持つなど、学びを深めることができた。
- この機会を通して改めて自分の生活を振り返り、生きるために必要な物、個々に必要な物について考えることができた。また、意見交換を盛んに行うことで、新たに気づき共有することができた。

#### 【課題】

- 今後近いうちに起こると想定されている災害であり、日頃から危機感を持って過ごせるように、定期的に防災についての学びを取り入れることも大切である。
- 生徒の実態が多様化する中で、実態に応じた適切な課題設定が必要である。